

移植時側条施用

- 移植時側条施用は、田植機に専用の側条施薬機を取り付けて、移植時に側条の溝に農薬を施用する技術です。
- 高密度播種育苗をはじめ、稚苗慣行栽培、疎植栽培など幅広い栽培形態に対応できます。

【従来の育苗箱処理による病害虫防除】

近年、普及が拡大している高密度播種育苗では、10a当たりの育苗箱枚数が少なくなり薬剤投下量が減るため、いもち病をはじめとする病害虫に対して効果不足が懸念されます。



いもち病



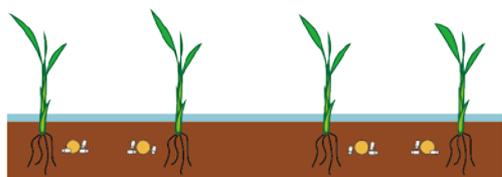
イネミスソウムシ



イネドロオイムシ

【移植時側条施薬による病害虫防除】

育苗箱の枚数に関わらず、1kg/10a処理されるため、病害虫に対して安定した効果が期待できます。



○：薬剤、●：肥料



側条の溝に処理された粒剤※

※処理した粒剤の位置を確認するため、強めに落水して処理しています

【移植時側条施用のメリット】

- **省力** 播種時や移植直前に薬剤を処理する必要がなく、移植と同時に薬剤が処理されるため、作業を軽減することができます。
- **環境** 育苗ハウスに苗箱を並べて処理しないため、ハウス内後作への農薬残留の心配がありません。薬剤を側条の溝に埋め込むため、田面水への薬剤の流亡が減少し、環境負荷が少なくなります。
- **高い効果** 病害虫に対して安定した効果が期待できます。

【移植時側条施用に登録のある薬剤】

ホクコー

Dr.オリゼフェルテラ粒剤

農林水産省登録 第22561号



使用量：1kg/10a

移植時側条施用での適用病害虫
いもち病、イネミスソウムシ、イネドロオイムシ

[Dr.オリゼフェルテラ粒剤](#)

Dr.オリゼパディート粒剤

農林水産省登録 第23847号



使用量：1kg/10a

移植時側条施用での適用病害虫
いもち病

[Dr.オリゼパディート粒剤](#)

各薬剤の製品情報は、下記のリンクからご覧いただけます。

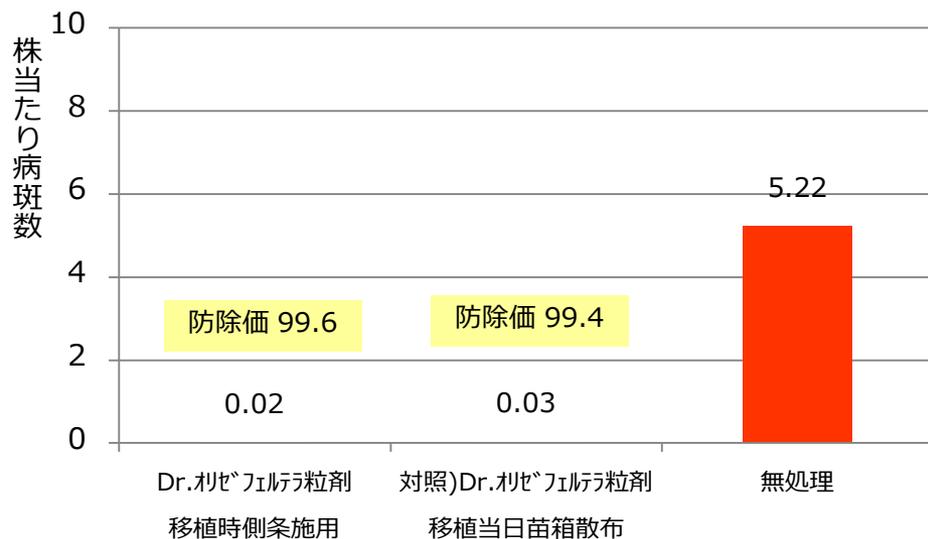
移植時側条施用の圃場断面イメージ図

移植時側条施用でのいもち病効果

Dr.オリゼフェルテラ粒剤

2015年 秋田県農業試験場

葉いもち（移植74日後調査）



試験概要

病害発生状況：少発生（接種）

品種：ナツミノリ、播種：4月17日、移植：5月18日

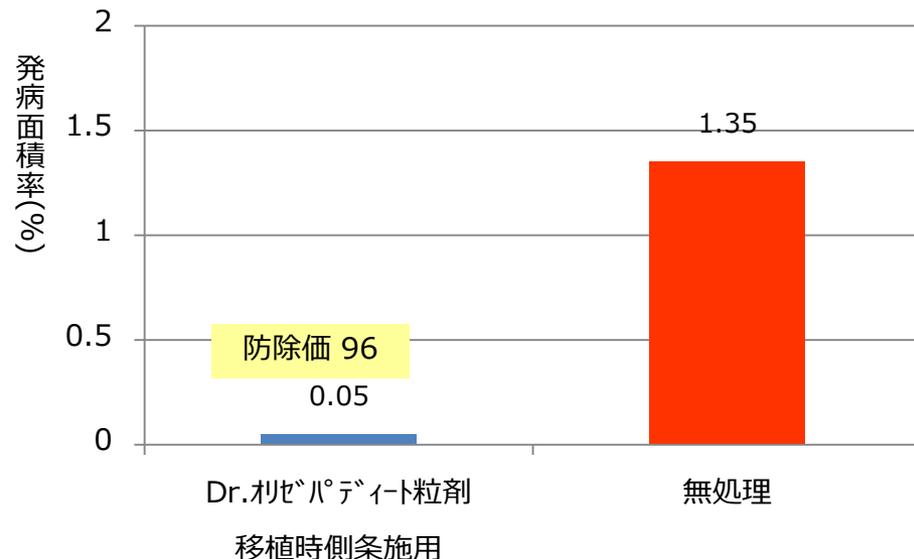
処理：移植当日（5月18日）

調査：移植74日後（7月31日）に各区任意の3地点で、100株について上位3葉の病斑数を調査した。

Dr.オリゼパディート粒剤

2017年 青森県産業技術センター
農林総合研究所

葉いもち（移植66日後調査）



試験概要

病害発生状況：中発生（接種）

品種：ゆめあかり、播種：5月1日、移植：5月23日

処理：移植当日（5月23日）

調査：移植66日後（7月28日）に各区25株4ヶ所の上位2葉を調査した。

Dr.オリゼフェルテラ粒剤、Dr.オリゼパディート粒剤は移植時側条施用で、葉いもちに対して高い効果を示しました。

オリゼメート普及会



北興化学工業株式会社

〒103-8341 東京都中央区日本橋本町一丁目5番4号

☎ 03-3279-5161（営業部）

お問い合わせは右記まで

本資料は2019年3月末日現在の登録内容に基づいて作成しています。